
(令和4年7月21日掲載)

生まれつき「悪い子」はいない



山脇 文子 (やまわき・ふみこ)

キャリアコンサルタント・公認心理師。人と心のコンサルティング「トラスティ」代表。1児の母。太平洋学園高校評議委員。国家資格のキャリアコンサルタント、公認心理師などを生かし、企業のパワハラやメンタルヘルス対策・経営後継者や管理職育成・健康経営支援など、個人では、仕事と家庭の両立・不登校・ひきこもり・メンタルなど多様な相談に応じる。県と高知市が共同設置している「ひとり親家庭支援センター」(高知市)にも相談員として勤務。

子どもは、真っ白。生まれつき「悪い子」はいない。というのが私の信念です。では、そもそも私たちはどういう子を「悪い子」と思うのでしょうか？

例えば、集団行動ができない。周りの子をたたいたり、かんしゃくを起こして暴れるなど他人に危害を加えたり、迷惑をかける。朝起きなくて、学校に遅刻したり休んだりする。勉強しなくて成績が悪い。夜徘徊したり非行行動をする。親の言うことをきかない。親の望む進路に進まない。世間的に恥ずかしいと感じる子である。

どうでしょう？後半になってくるとだんだん、「悪い子」なのか、「親の言いなりにならない子」なのか、分からないですね。子どもは親と全く違う「一人の人間」です。全てにおいて親の思い通りにしようとすることは、子どもへの人権侵害ともいえます。

また、前半については、暴力行為・物をとるなど非行行動をすると「悪い子」と、つい思ってしまいますが、生まれつき悪い子はいません。被害は防ぎつつも、何かしらの事情があって、そういう行動に表れている。という視点を持ちたいものです。子どもの性格や行動を決めるのは、環境と脳の構造など生まれつきの特性です。

環境というと「親の育て方」が悪いという方もいますが、子どもを取り巻く環境は親だけではありません。祖父母・親戚・近所の人・友達・保育園や幼稚園、一時預かり保育の先生・学校や児童クラブの先生・行政職員や福祉の専門家・医師など医療機関の職員…その他もろもろ。子どもに関わる人は数限りなくいます。

もちろん子どもにとって、親の関わりが非常に大きいことは間違いありませんが、子どもは地域の宝であり、大人になれば地域社会を担う人です。超少子高齢化で労働人口が激減していく日本において、より一層大事な子どもの育成を、親だけに丸投げして、十分な

育成ができなかった場合に、それを親のせいにして責めたり、「自己責任」で片付けたりしていいのでしょうか。

親も人間です。親自身が特性を持っていて子どもとの関わりが上手でない場合もありますし、経済・仕事・日常生活で手いっぱい、子どもにきちんと関わる余裕がない場合もあります。心や体の具合が悪くて適切な養育ができない場合もあります。

また、生まれつきの問題では、子どもに発達障害や知的障害、持病があるかもしれません。発達障害などに関しては、見た目では分からず、重度でなく診断が下りていない子であっても、困難を抱えて苦しい思いをしている子どもは少なからずいます。

子どもは周りの方の関わり方一つで良くも悪くも驚くほど変わります。親が手いっぱいな時は、一層、学校や発達支援の専門家などの寄り添った関わりが必要です。日本もそういう方針にはなっていますが、実際のところ、必要な親子に支援が十分届いているとは言えない状況です。

子どもたちを育てるのは周りの大人、地域社会です。ぜひ子どもにも、保護者にも優しい視線を送り、積極的に温かい関わりをしてほしいです。

そして、子どもたちも親御さんも、つらい時やいろんなことがうまくできない時には、「誰かに助けを求める勇気」を出してほしいです。遠慮はいりません。長い人生お互いさまです。もし、どうしても申し訳ないと思ってしまうなら、困難を乗り越えた後に、お世話になった人の、もしくは自分と同じように困っている人の力になりましょう。そうやって恩送りの精神で温かい高知家をつくっていけば、私たちが子どもたちの未来も明るいはずですよ。



高知市内の中学校で開いたキャリア講話